

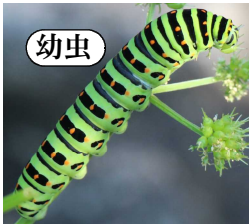


最近見つけたの生き物たち！ (春型のキアゲハ)

このごろ、あさによく虫などをつれてきてくれる子がいます。そこで、わたしもさいきん見つけた生き物をしょうかいします。

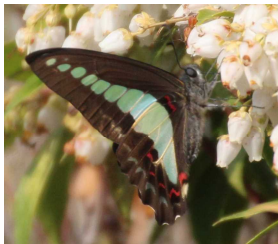


キアゲハ (アゲハチョウ科)



幼虫

学校(がっこう)でもたまに見かけ、大きなチョウのだいひょうでもある名前(なまえ)のとおり黄色(きいろ)っぽいキアゲハは、春(はる)と夏(なつ)です。こし色(いろ)あいがちがいます。前の羽(はね)のつけねが黒(くろ)くなっていることで、アゲハと見わけることができます。花をもとめて飛(と)びまわっています。幼虫(ようちゅう)はセリやニンジン、パセリ、ミツバなどの野菜(やさい)の葉(は)も食(た)べるので害虫(がいちゅう)ともいわれます。



アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)

本州(ほんしゅう)より西で見られる黒地(くろじ)に青白(あおしろ)いすじが一本はいったアゲハチョウのなかま。飛翔力(ひしょうりょく)がたかく、はやいスピードで、木や花のまわりをめぐるしく飛(と)びまわります。オスは、しめった地面(じめん)で吸水(きゅうすい)します。幼虫は、学校にも明石公園にもよくあるクスノキを食べますので、よく見かけることができます。



水場で吸水中

ウメエダシャク (シャクガ科)



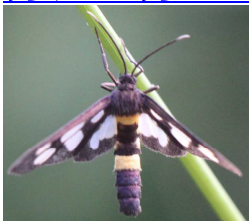
今(いま)よくヒラヒラとゆっくりと飛んでいるのをよく見かけ、はねは白と黒のまだらもようで、腹(はら)はうす黄色で黒色のはんもんがなっています。シャクガのなかまは2対(つい)の足(あし)で尺(しゃく)を取(と)るような歩(ある)き方(かた)

をするのでシャクトリムシ(尺取虫)の名があります。幼虫は、名前のとおりのウメやモモ、サクラ、エゴノキなどの葉(は)を食べます。



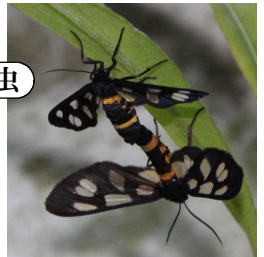
ウメエダシャクの幼虫

カノコガ (ヒトリガ科)



昼行性(ちゅうこうせい ひるまにとびかう)のガで、日本中にいて、黒っぽい色のどうたいにオレンジ色のおびがあります。幼虫はツメクサ、スギナ、スイバ、ギシギシ、タンポポなどの葉を食べます。じつはハチなどに擬態(ぎたい ばけている)しているともいわれます。名は、は

ねのもようが子鹿(こじか)のもように似(に)ているからだとされています。



交尾中のカノコガの成虫



カタツムリ (オナジマイマイ科 ^か はつきりとは?)

梅雨(つゆ)の今よく見かけ、デンデンムシやマイマイなどもよばれるカタツムリにはいくつか種類(しゅるい)があります。キャベツ、にんじん、かぼちゃ、さつまいもなどの葉を食べます。カタツムリは夏(なつ)のはじめごろにこうびし、5~8月ごろしめりけのある土を掘(ほ)っ



てはいり、卵(たまご)をうみます。25日ほどするとふ化し、赤ちゃんはカタツムリのミニでかわいい。カタツムリはオスとメスの区別(くべつ)がありません。でも、2匹以上(ひきいじょう)いないと卵はうまれません!カタツムリとナメクジは、よくにています、カタツムリから「から」をとってもナメクジにはなりません。やはり別の生き物なのです。

モリアオガエル (アオガエル科 ^か)

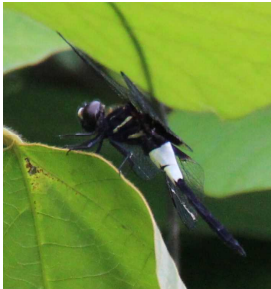
モリアオガエルの卵塊



本州(ほんしゅう)のどこにもいて、兵庫県(ひょうごけん)でも森(もり)の中にすんで、特徴(とくちょう)が卵(たまご)のうみかたです。オスとメスで、かならず池(いけ)の上に枝(えだ)がのびている

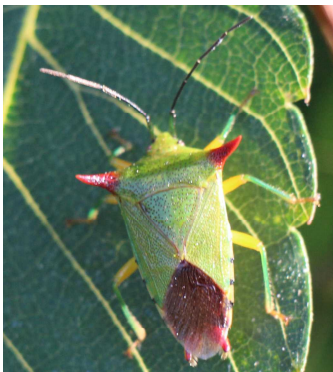


木(き)にのぼり、白いアワのかたまり卵塊(らんかい)の中に300以上の卵(たまご)をうみます。中で育てておたまじゃくしになると下の池(いけ)におちて池(いけ)で生活(せいかつ)します。大きさは6~8cm大きいカエルです。水(みづ)かきがあり、指先(ゆびさき)は吸盤(きゅうばん)になっています。毎年(まいとし)自然学校(しぜんがっこう)で行く神戸市立自然(こうべしりつしぜん)の家(いえ)で、このアワにであうことができました。今年(ことし)もであえるかな!



コシアキトンボ (トンボ科 ^か)

今年(ことし)はじめて写真(しゃしん)にとれたトンボで、日本中(にっぽん)にいて、大きさは41~50mmで5~10月(つき)ごろまで見(み)られます。黒色(くろいろ)でオス(おとこ)とメス(めす)ですこし色(いろ)がちがいますが、腹(はら)の上部(じょうぶ)だけが白(しろ)いので見(み)わけやすいトンボです。白(しろ)い部分が空(あ)いているように見(み)えるのでこの名(な)がついたそう(そう)です。ため池(ためいけ)などで見(み)られ、池(いけ)の水面(すいめん)近(ちか)くを飛(と)び回(まわ)っています。複数(ふくすう)でよくなわばり争(あらそ)いをしてい(し)ていること(こと)も多(おほ)い。伊川(いがわ)の上流(じょうりゅう)で見(み)ました。



オオツノカメムシ (ツノカメムシ科 ^か) ^か っこいい!

きらわれやすいカメムシ(かめむし)ですが、これは、名(な)のとおり、まるで赤オニ(あかおに)のよう(よう)にするどくとが(と)った赤(あか)い角(つの)が2(ふた)つあり、16~18mmの大き(おほ)きで本州(ほんしゅう)から南(みなみ)で4~10月(つき)に見(み)られます。幼虫(こども)はストロー(すたろー)のよう(よう)な口(くち)でケンポナシ(けんぼなし)の汁(じゅう)をす(す)います。成虫(せいどう)になるとミズキ(みずき)などの葉(は)につ(つ)きます。体(てい)はみどり色(みどりいろ)で足(あし)は黄(き)色(いろ)。山間(やまあい)にいてあまり見(み)かけない。

ミズキの葉

